

事故の内容を知ることが大切

子どもを事故から守りましょう

子どもは好奇心が強く、大人が想像もできないような遊びや行動をします。子どもの発達年齢によって、起こりやすい事故に特徴があります。成長の中で、どのような事故が起こりやすいか知っておくことはとても大切です。子どもを事故の危険から守るため、事故の予防の先回りをして、環境を整え対策をとりましょう。



問い合わせ 子育て応援課母子保健係（プラザけやき内☎37-1136）、発達支援係（プラザけやき内☎37-1137）

子どもの発達と起こりやすい事故の例

参考：消費者庁 子どもを事故から守る事故防止ハンドブック

	新生児	6カ月	1歳	2歳	3歳
発達の様子	寝返り	ひとり座り ハイハイ つかまり立ち	ひとり歩き	走る	階段昇降
誤飲 窒息	たばこ・薬・コイン・ボタン・電池など 枕・やわらかい布団	ひも・よだれかけ・ビニール袋		洗剤・化粧品などを開けて飲む ピーナツ・豆類	
やけど	湯たんぽ・あんか 風呂・シャワーの湯	食事中に湯のみなどを倒す ストーブ・アイロンに触る	ポット・炊飯器の蒸気に触れる ストーブ・アイロンに触る	ライター 花火 カップめん	
溺水		浴槽・洗濯機へ転落して おぼれる		海や川やプールでおぼれる ビニールプール	
転落	親がうっかり 落とす	ベッド 自転車 階段 ベビーカー いす		ブランコやすべり台 窓やベランダ	
打撲や切り傷		角のあるおもちゃ 扇風機の羽にさわる	ドアにはさまる 転んでテーブルの角などにぶつかる		
その他	自動車内放置による熱中症・交通事故	自転車に乗せたまま離れる		歯ブラシを口にいられたまま転倒する	

家での事故と対策

参考：消費者庁 子どもを事故から守る事故防止ハンドブック

	事 故	対 策
転倒・転落事故 生後4カ月頃～	ベビーベッドや、ソファなどから転落する。 階段から転落や、ベランダの柵の間からすり抜けて転落する。	・ベッドから離れる時は、必ず柵を一番上まであげる。 ・危険な場所に寝かせたり、置いたりしない。 ・階段にはベビーガードを取り付け、窓には高い位置に補助錠をつけるなど工夫をする。 ・ベランダや階段、窓の近くに踏み台になる椅子やプランターなどを置かない。
やけどの事故 生後5カ月頃～	テーブルクロスを引っ張り、高温の飲み物や食事などをひっくり返して、やけどをする。 ストーブに触れたり、電気ポットや炊飯器、アイロンなどの熱い蒸気に手を出して、やけどをする。	・子どもの手の届かない場所で調理する。 ・テーブルクロスを使わない。 ・暖房器具は安全柵で囲い、子どもの興味をひく蒸気の出る器具は手の届かない所へ置く。 ・未使用のときは、コードを外す。
窒息・溺れなどの事故 生後6カ月頃～	何でも口に入れて確認する行動がみられ、誤って気道に入ると窒息の恐れがある。医薬品やボタン電池などを飲むと体に有害。 濡れた床で滑って転倒したり、浴槽に浮かぶおもちゃを取ろうとして溺れたりする。小さな子どもは、わずか10cmの深さの水でも溺れてしまう。 プールや海、川などで遊んでいて、目を離したすきに溺れてしまう。	・小さな物やタバコ、鋭利な物などを子どもの近くに置かない。 ・洗剤や薬品類は、手の届かない所にしまいか、鍵のかかる場所に保管する。 ・入浴中は、子どもから目を離さない。 ・入浴後の浴槽の水は抜いておく。 ・水遊びには必ず大人が付き添い、子どもから目を離さない。 ・川や海では、子ども用のライフジャケットを着用する。

事故が起きたときの相談先

静岡こども救急電話相談局番なしの「#8000番」

専門家である看護師や小児科医が電話でアドバイスします。

相談時間 平日 午後6時～翌朝午前8時 土曜 午後1時～翌朝午前8時 日・祝日 午前8時～翌朝午前8時

※年末年始もつながります。※ダイヤル回線固定電話やIP電話からは「054-247-9910」